

障害児者の生きる基盤となる「暮らしの場」の早急な整備を求める意見書

障害によって何らかの社会的支援がなければ生きていけない障害児者が年々増加している。現行の障害福祉施策は、居宅や施設等のサービス全般にわたって社会資源の絶対的不足が慢性化しており、結果として多くの障害児者が家族の介護に依存した生活を余儀なくされている。家族に依存した生活の長期化は、精神的にも経済的にも相互依存をより助長し、障害児者の自立をますます困難なものにしている。

平成 26 年 1 月に締結した国連・障害者権利条約の第 19 条(a)では「障害者が、他の者との平等を基礎として、居住地を選択し、及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること並びに特定の生活施設で生活する義務を負わないこと」と、また、第 28 条では「障害者が、自己及びその家族の相当な生活水準（相当な食糧、衣類及び住居を含む。）についての権利並びに生活条件の不断の改善についての権利を有することを認める」と明記されている。

多くの障害児者と家族は、社会からの孤立と家族依存や老障介護等の現実の中で、生きる基盤となる「暮らしの場」の早急な整備を切実に望んでいる。とりわけ、緊急時や同性介護に対応するヘルパー等の福祉人材確保の問題や、入所施設への希望者が増加する中で緊急度の高い待機者が長期のショートステイを余儀なくされている問題などは早急に解決すべき問題であるといえる。

よって、国においては、こうした深刻な現状を打開するために、地域で安心して暮らすために必要な社会資源の拡充を図るとともに、地域の中の重要な社会資源として共存し、相互に連携した運営と拡充が図られ、利用者が体験的に選択できる状況を早期に実現するよう、次の事項を強く求める。

記

- 1 障害児者が「暮らしの場」を選択できるよう、グループホームや入所施設・通所施設などの社会資源を拡充し、福祉人材を確保すること。
- 2 入所機能を備えた地域生活支援拠点を国の責任で整備すること。
- 3 前 2 項を実現するために、障害者関係予算を大幅に増額すること。また、施策の重要な担い手である地方公共団体を財政的に支援すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

平成 30 年 3 月 27 日

新潟県佐渡市議会議員 岩 崎 隆 寿